

に似たり、此菩薩の法性法身が和光垂跡を現はして此土に降臨し給ひ一切衆生を衛護して國土平安五穀成就家内安穩の利益を與へ給ひ以て一切衆生に佛の種子を下し如來の結縁を厚くせしめ給ふもの也、其慈悲廣大にして高く天を覆ひ普く虚空に滿ちみち給ふ、故に攝化の利益悉く天下四海に行渡れり、諒に知りぬ上古より正傳寡き靈場也、將來人皆之によりて念願すべし、爰に於て昔より獻華を致し供物を捧げ五體を地に投じて恭敬禮拜する者多く亦四方より賓客輻輳して參拜の輩益々多きを加ふ、彌々不思議の至り也、然れば此靈地に參するものは宿昔の縁深くして亦將來の結縁淺からざる可し、此山碧草を生じ金砂を敷き山邊葉を拾ひ巖側薪を採るの樵夫牧童と雖も明神の密益を蒙り如來の縁種を結ばざる事なる可し。

惟ふに今此地に在る圭光山鞍馬寺といへるは往昔何人の開き給ひしやを知らずと雖も毘沙門天の尊容と不動明王の形像とを彫刻せり、毘沙門天王は如來の法身界より福德神と現はれ給ひて貧窮無福の輩を救ひ如來の因縁を結び給ふ和光の垂跡也、

不動明王は大日如來の化身にして降魔神と彰はれ給ひて災禍多き衆生を憐みて能く千災を除き萬禍を消して我等に轉迷開悟の因縁を植付け給ふ尊容也、此岩跡の在る所を天下原村と號せり。

後大國村に鎮壇を建て薰香を燻き幣帛を捧げて尊崇恭敬す、謹嚴なる祭祀は古昔より年々絶ゆることなし、此地より北に當りて峨々たる高山あり、奇岩怪石高く聳む青松碧樹其間に生ず、景勝真に好みすべし、復此地に神社を構む之を上宮と稱し神吉部内十一邑の村民之を氏神として尊敬す、是より大國村の社を古宮と稱す、古昔より今に至るまで毎歲九月二十三日神職來りて祭儀を行ひ氏子村民參拜す、中に於て童子一人身體を清め衣裳を正して古宮及び上宮に歴參するの儀式あり、又八幡宮を奉請して之を上宮に合祀し鎮守の神と崇め奉る、神明佛陀の靈感空しからず氏子村民年々に繁榮し歲々に發展せり、按ふに此山邊は織田信忠兵を構ひ陣を張りし古戰場也、信長記に神吉志方の間と記せしは即ち此所なるべし。

又上宮の東に藥師堂を建立するは藥師如來は東方

瑠璃光の淨土にましまして具さには東方藥師瑠璃光如來と申し奉り一切衆生の衆病を消除し精神の煩悶を快癒し給ふを以て衆生に縁を結び遂に我等をして淨土の證果を得せしめ給ふ尊像なれば也、又上宮の西に觀音堂を造營し奉るは觀音は具には大悲救世觀世音菩薩と稱し奉り其本國は西方極樂世界にましまして常に彌陀如來に侍坐し大悲をもつて世間の七難を消滅し衆生の三毒を除き端正美麗の男女子を産しめ給ふ、又三十三身を化現し給ひて世間を救濟して我等に縁種を結ばせ給ふ、是終に無上眞妙の解脱を得せしめ給ふ所以也、西方の菩薩なるが故に上宮の西に之を安置し奉る、又此地内に鐘樓を造營して鐘々之を撞き鳴らす所以は其響音これ佛陀の大悲招喚を表はし朝には衆生の迷夢を警醒し夕には我等の無常を悟らしめ給ふに出づ、よくよく内鑑の佛陀外應の神明相雙びて和光同塵の垂跡歴然として渴仰尊崇に餘あり。

抑々此山の東麓には大なる池あり、漫々として水を湛へ魚躍り龜遊ぶ、又東方に高山巖石の聳立するあり、飛禽遊棲し綠樹其間に茂生す、其麓には

丹但兩州へ通するの大路あり、西北は山岳の間に村落を挾み、風景に富み南方には神吉民部大輔の城址あり、亦佛閣ありて常樂寺と號す、蓋此附近に於ける最古の寺院とす、此地を距る南方約一里にして往還通ず、其沿道に加古川米田等あり、尙延きて南すれば海岸に到る、海上砂漫として大船巨舶東西に來往し所謂瀬戸内海の景緻に接す、今此神社の山巔より目を放ては脚下の萬景指顧に在り、北方に大山ありて中堂寺と號す、串橋左京大夫の古城址也。

抑々當社神宮氏子村落は神吉村天下原村大國村宮前村下富木村清水村西脇村長慶村西村中西村磯部村の十一箇村也。

信にそれ當神社の由緒來歴複雑にして興味深趣なれども其記事今悉く散失して傳はらず、唯口碑を綴り輯めて茲に其大要を記註し置く耳。

延寶八庚申年八月 日 神宮寺

○社 領

一妙見大明神社 除地 宮前村 社僧 寶林寺
社領五石、神吉村高の内にて引申候